

株主の皆様へ

「今期業績の結果ご報告」

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2017年3月期（第19期）は、連結営業利益については公表数値の水準を達成でき、連結経常利益については持分法適用会社である医化学創薬㈱の事業化進捗遅れを起因とするのれんの減損損失の影響により、公表値を下回る結果となりましたが、連結黒字体質の確立及びこの結果を受けた繰延税金資産の増加もあり、連結最終利益は3期連続の黒字かつ公表を上回る増益を確保できました。これも一重に株主の皆様のご支援の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

なお、医化学創薬㈱については、事業化について当初計画とのかい離はあったものの、事業は着実に進捗しており、今後も、グループに大きな相乗効果もたらしめよう努めてまいります。

一方で、売上高については公表数値を下回る結果となりました。弊社グループの売上・利益の構図は、第3四半期までの低調・赤字を第4四半期に集中する売上・利益で挽回するという極端な下期偏重型の構図になっております。その構図の中、当期は前半から受注が好調だった結果、上期で損益分岐点を突破いたしました。私は、この状況を受けて、下期に例年通り、あるいはそれ以上に受注を積み上げていくことを予測し、上期の業績報告の際に、受注は順調であり業績修正の要否について確定次第、ご報告したい旨報告させていただいた次第です。しかしながら、当期は、この秋口まで例年以上のペースで来ていた受注及び引き合いが、11月以降において加速しないという、企業、アカデミアの予算執行が極端に平準化した例年とは異なる年で、この結果は私自身、想定外の極めて不本意なものでした。

損益については、この売上状況においても、前述の結果を達成することが出来ました。グループ構築から4年を経過し、グループの事業運営体制も概ね確立し、随時改善を進めていく中で、開発、製造、営業及び管理全般にわたる経営効率化が功を奏したもので、この体質改善は大きな成果といえます。

新年度は昨年開始した最先端機器を活用した臨床試験サービス及び社会的にも意義のある子宮頸がん検査率向上を後押しする自己採取型のHPV検査サービスを軌道にのせ、さらにグループ一丸となり企画・営業の強化を通じて拡大成長を図る所存です。

第一次中期経営計画が終わり、総括については次期中期経営計画公表の際にお示しするとともに、当社グループだからこそ提供可能な差別化・優位性あるサービスの具現化を計画の柱においた拡大成長路線の道筋をお示ししたいと考えております。当社グルー

プは、第一次の3カ年において黒字体質への変換を遂げ、次期3カ年においてさらなる収益性・成長性あるグループとして維持・発展すべく邁進する所存です。次期中期経営計画の内容につきましては確定次第開示いたします。

当社は「創一流」の創業精神のもと「世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」という経営理念を誇りに日々の業務に取り組んでおります。

皆様のより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

株式会社トランスジェニック

代表取締役社長

福永健司